

地域連携協定に至るまでの経緯

香取市と学校法人東京農業大学「東京情報大学」は、市民協働のまちづくりの推進、大学の教育・研究活動の充実を図るため、地域連携協定を締結することになりました。香取市は国宝指定された大日本沿海輿地全図を完成させた伊能忠敬を輩出したまちであり、東京情報大学の母体である学校法人東京農業大学の創設者 榎本武揚の父 箱田良助は、伊能忠敬の筆頭内弟子として、九州第一次測量、第二次測量に参加し、測量及び地図作成に尽力した人物であることから、東京農業大学と香取市は歴史的に大変大きなつながりがあります。

東日本大震災後、東京情報大学の伊藤先生が被災地佐原の視察に訪れ、復興支援として「被災から立ち上がる佐原の人々」を記録として残して下さることになりました。毎週、先生と学生の皆さんは復興に取り組む市民の方々を取材し、重い機材を担って半年余り佐原に通って下さいました。その交流から市民の方々と大学の信頼関係が生まれました。秋には今までの取材の成果であるDVD「まちは生きている～佐原・復興観光の思い～」が完成し、その年の千葉県メディアコンクールグランプリを受賞し、大いに地域を勇気づけて下さいました。

東京情報大学では、社会環境の変化や情報社会に対応できる人材を必要とする社会的ニーズに積極的に応えるために「1学科12コース制」を導入し、社会生活の基盤を担う「情報」を切り口として幅広い分野の専門教育の実現を目指しています。そのコースのひとつに「ちば地域構想コース」（社会環境・自然環境・文化・観光資源・コミュニティについて総合的に学ぶ）を設置し、学生が様々な現場で学ぶと共に、大学として地域貢献を推進していくために、歴史的つながりも踏まえ、市民協働のまちづくりを推進している香取市を連携の場として位置付けました。

この度の協定締結により、香取市をフィールドとして未来志向の「まちづくり」を学び研究することで、情報化社会の人材育成に大切なソーシャルスキルの習得を目指すとともに、東日本大震災で大きな被害を受けた香取市の復興と市民協働のまちづくりの推進について地域貢献を行うものです。

伊能忠敬と榎本武揚の歴史的つながりを大切に発展的に継承し、「情報」を活用した新しい未来を切り拓く人材育成と市民協働のまちづくりの推進に取り組み、市や地域住民、大学双方に有益となるよう連携・協力していきます。